

H21年度 基礎データの収集実施報告

阿蘇草原キッズ・プロジェクトをはじめるにあたって、必要な基礎データ収集をするため、阿蘇郡市内の小中学校や牧野組合を対象にアンケート調査やヒアリング調査を実施しました。調査の中では、小中学校の草原環境学習実践事例の収集、牧野組合の草原環境学習受け入れの可能性、その際の条件等を整理しました。このうち、実践事例のアンケート調査結果については、すでに第8回の学習小委員会でご報告しておりますので、ここではヒアリング調査結果の概要についてお知らせします。

<小学校へのヒアリング結果>

対 象：H21年3月実施の「阿蘇草原環境学習実践事例のアンケート調査」に回答のあった阿蘇郡市内の20の小学校へヒアリングを実施

結果の概要：

①草原環境学習への取り組みの可能性

- ▶ ヒアリングを実施した8割以上の小学校において、何らかの形で草原環境学習への取り組みが可能という感触が得られた。近くに草原があること、周辺の牧野組合が協力的であることやスクールバスの利用が可能である等がプラスの要因となっているようだった。
- ▶ 取り組みを難しくする要因としては、時間や移動手段の確保が難しいこと、草原が身近に感じられる環境にないこと等が把握できた。

②すぐに取り入れることが可能な学習内容

- ▶ 理科や国語などの授業と関連付けること、遠足と組み合わせること、周辺で見られるオオルリシジミの学習、野草紙を用いた卒業証書づくりなどが複数の学校からあげられた。

③学校からの要望

- ▶ 草原環境学習の必要性や魅力を教員に伝えること
- ▶ 実践事例の紹介や具体的な学習プログラム提案
- ▶ 専門家によるサポート
- ▶ 学習について相談できるコーディネーターや窓口の設置
- ▶ 使いやすい補助教材の提供（草原ば映像のDVDなど）

<中学校へのヒアリング結果>

対 象：H21 年 3 月実施の「阿蘇草原環境学習実践事例調査アンケート」に回答のあった阿蘇郡市内の 12 の中学校へヒアリングを実施

結果の概要：

①草原環境学習への取り組みの可能性

- ヒアリングを実施した全ての中学校において、何らかの形で草原環境学習への取り組みが可能と思われた。ただし、どの中学校においても十分な時間がないことが問題となっており、通年のプログラムは困難と考えられた。

②すぐに取り入れることが可能な学習内容

- 現在ほとんどの中学校で行っている集団宿泊のなかで実施可能な草原環境学習
- 社会科や理科等の教科と関連付けた学習

③学校からの要望

- 前述の集団宿泊のなかで実施可能な、30 分、1 時間、半日等、異なるバリエーションの草原環境学習プログラムの提案
- 学校に来て話をしてもらえる専門家についての情報

<牧野組合へのヒアリング結果>

対 象：前述の小中学校の周辺にある牧野組合を中心に、9 つの牧野組合へヒアリングを実施

結果の概要：

①地元の子どもたちの草原環境学習を受け入れる可能性

- 全 9 牧野で地元の子どもたちなので受け入れたいという回答であった
- けがや事故を心配する声もあった
- 草原についてのお話や、草原の自然観察、草刈りや草小積み作りなどの体験、牛のえさやりなど、いろいろなプログラムの実施可能性が示された

②受入れのための条件など

- 地元の子どもたちを受け入れる際、謝金は不要であるが、プログラムの内容によっては人手やボランティアが必要となることもあり、謝金等が必要となる場合がある

以上